野山の花

— 身近な山野草の食効・薬効 —

城西大学薬学部　白瀧 義明（*SHIRATAKI Yoshiaki*）

カタクリ *Erythronium japonicum Dence.*（ユリ科 *Liliaceae*）

皆様ご存知の片栗粉ですが，今ではバレイショデンプンの袋詰めが店先に並んでいることが多いですね。しかし，もとは写真のようにまるでバレーリーナが踊っているような花を咲かせ，春の妖精とでも言えるこの植物の鱗茎から得ました。手で引き抜くと茎の途中で契れてしまいますから掘り取ってデンプンを得るには大変な手作業が必要ですが，最近は山菜として地上部（葉）がスーパーマーケットなどで売れられています。若葉を熱湯にさっとくぐらせ浸し物，和え物にすると美味しいそうです。

薬用としては鱗茎を使います。これから得たデンプンをすり傷，できもの，湿疹などの治療目的で患部にふりかけたり糊液を緩和剤，下剤，滋養強壮剤に用いるほか，丸剤や錠剤の賦形剤にも利用されました。

本植物は古名をカタカゴ（堅香子）と言い，花の形が傾いた籠のような形をしていることから付けられたのだろうと言われています。万葉集には大伴家持が詠んだという「物部の八十おとめらが汲みまがふ寺井の上の堅香子（カタカゴ）の花」の有名な歌があり，早春，清水を汲みながら談笑する乙女とカタクリを歌っているそうです。

本植物は芽吹き前の落葉広葉樹林に生え，葉は普通２枚葉で他の植物が茂る前に枯れてしまいます。このような植物を早春季植物（スプリング・エフェメラル）といい，生命力の弱い植物の生き残り戦略の一つです。又，種子にはエライオソームという蟻の好きな芳香性のある脂肪酸などが含まれていて，蟻の力を借りて子孫を残す仕組みになっています。発芽してから花が咲くまでに７～８年もの年月がかかり，それまでは一枚葉で過ごします。最近は自然破壊が進み野山でカタクリの花を見かける事がめっきり少なくなりましたが，10 年程前，埼玉県小川町の白石峠～笠山で見たカタクリの群落はとても見事なものでした。